

# 地質標本館展示更新：1階ロビーの「誕生石」展示

柳澤 教雄<sup>1)</sup>・角井 朝昭<sup>1)</sup>・瀬戸口 希<sup>1)</sup>・古澤 みどり<sup>1)</sup>・朝川 暢子<sup>1)</sup>・清水 裕子<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

地質標本館には岩石・化石・鉱物など約2,000点の地質標本が展示されており、そのうち約800点が鉱物標本です。地球内部の様々な環境(様々な温度・圧力条件)で形成された鉱物の中には、特徴的な形状・色彩を呈するものもたくさんあり、それらの中で希少性が高く美しい外観を有するものが「宝石」と呼ばれるものです。宝石は人間の営みの中で宝飾品として用いられ、資産としても取り扱われます。工業原料として使用される鉱物は、そのままの形で私たちの目に触れることは少ないので、そのままの形で私たちの目に触れる宝石は、私たちにとって馴染みのある鉱物であるとも言えます。

従来から地質標本館では、宝石に関わる展示も行っていました。今回、これら「誕生石」を中心として整理・再構成した展示コーナーを新設しましたので、その経緯と展示内容について紹介します。

## 2. 旧展示の内容

地質標本館1階映像室の入口付近には2023年1月まで宝石に関する2つの展示ケースが設置されていました。展示ケースの一つはダイヤモンドに関するもので、原石の結晶が含まれているキンバーライト、人工ダイヤモンド、ダイヤモンドの構造模型などが展示されていました。これらのうちいくつかは地質標本館10周年記念の特別展示(神谷, 1991)の際に使用され、その後常設的に展示されたものでした。もう一つの展示ケースには、寄贈された標本(オパールなど)、人工ルビーやサファイアなどを含む約30種類の宝石・貴石類が展示されていました。

この2つの展示ケースには、きれいな宝石などが配置されていたため、来館見学者の目にも止まりやすく、また外部の博物館からの展示貸し出し依頼もしばしばありました。しかし、どちらの展示ケースも長年にわたって順次追加・入れ替えを行ってきたため、全体としての統一感に欠けており、ラベル表記の読みにくさなども懸案事項でした。

また、その他にも入り口から入って左手側の「世界の岩石」コーナーの下には、凹面鏡を用いて宝石を浮かび上げるように展示するコーナーがありましたが、説明が分かりにくく、また装置も老朽化したため撤去することになりました。

このような事情から、宝石に関する展示エリアを再構成することにしました。

## 3. 宝石展示の再構成

展示構成の変更の際し、一般的に馴染みのある宝石・貴石の組み合わせとして、「誕生石」を展示テーマとしました。「誕生石」の組み合わせは、国や時代によって何通りかあるのですが、今回は2021年12月に全国宝石卸商協同組合(<https://zho.or.jp>)が主体となって改定したものに従うこととしました。これはJewelers of Americaが採用しているものに加え、日本独自に10種類を採用して全部で29種類としたものです(第1表; 全国宝石卸商共同組合, 2021)。

第1表 「誕生石」一覧。

1月	ガーネット
2月	アメシスト、クリソベリル・キャッツ・アイ
3月	アクアマリン、サンゴ、ブラッドストーン、アイオライト
4月	ダイヤモンド、モルガナイト
5月	エメラルド、ヒスイ
6月	真珠、ムーンストーン、アレキサンドライト
7月	ルビー、スフェーン
8月	ベリドット、サードオニクス、スピネル
9月	サファイア、クンツァイト
10月	オパール、トルマリン
11月	トパーズ、シトリン
12月	トルコ石、ラピスラズリ、ジルコン、タンザナイト

1) 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

キーワード：誕生石、鉱物、貴石、宝飾

地質標本館での展示では、宝石標本（宝飾用にカット、研磨されたもの）だけではなく、未加工の原石や母岩に含まれる状態の標本も併せて展示することとしました。展示した標本の多くは従来から展示していたものでしたが、地質標本館収蔵品のうち、今吉標本（豊ほか、1984a, 1984b, 1985）、大森宝石標本（奥山ほか、1998）などからも新たに追加しました。

従来の展示は2023年2月から4月にかけて順次撤去し、その後に標本の選定、標本ラベルの作り直し、標本台の購入、配列の検討をへて、2023年5月から地質標本館1階ロビー入り口付近で展示を開始しました（写真1, 2, 3）。今回更新した展示は、「宝石」としての「鉱物」に焦点を当てたもので、小さくてきれいなものが多く選ばれています。地質標本館内には、これら以外にも多数・多様な鉱物標本を展示しています。それらの中には「誕生石」として展示されているものと同じ種類の鉱物であっても、見た目が随分と異なるものがあります。色合いの異なるもの、大きなサイズのもの、多くの結晶が群状に集まったもの、母岩に含まれた状態のものなどです。併せてご覧いただき、大地の

営みの中で生み出される造形の妙を楽しんでいただけたらと思います。ご来館をお待ちしております。

## 文 献

- 豊 遙秋・奥山康子・坂巻幸雄（1984a）今吉標本（I）。地質ニュース，no. 358，1-5。
- 豊 遙秋・奥山康子・坂巻幸雄（1984b）今吉標本（II）。地質ニュース，no. 359，1-4。
- 豊 遙秋・奥山康子・坂巻幸雄（1985）今吉標本（III）。地質ニュース，no. 365，1-4。
- 神谷雅晴（1991）地質標本館開館10周年記念行事を実施して。地質ニュース，no. 442，37-40。
- 奥山康子・山本良子・本荘時江（1998）地質標本館だより No. 50 大森宝石標本の寄贈と特別展示「ジュエリストの魅力」。地質ニュース，no. 526，57-60。
- 全国宝石卸商共同組合（2021）誕生石の改訂。https://i-rori.com/birthstone/（閲覧日：2023年9月1日）

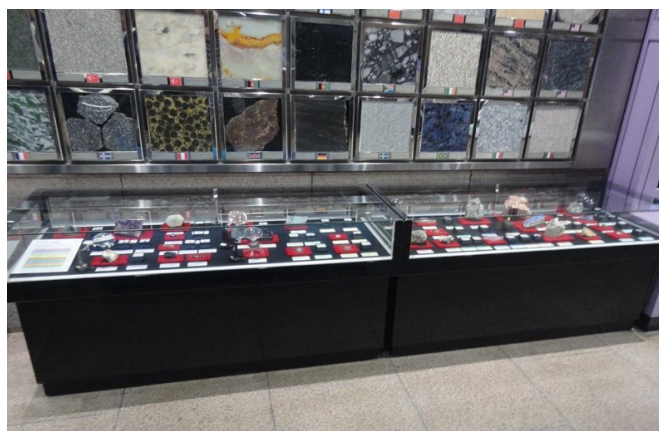


写真1 地質標本館1階「誕生石」展示コーナー（展示ケース2台）。壁側の石板は、「世界の岩石」コーナー：各国の地質調査所から寄贈された岩石標本。



写真2 「誕生石」展示ケース。1月から12月の「誕生石」29種について、宝石標本（宝飾用にカット、研磨されたもの）と未加工の原石や岩に含まれる状態の標本を隣接するように配置した。また、月ごとにまとめて配置するとともにラベルの色分けを行った。



写真3 「誕生石」展示例，9月の誕生石の一つ；クンツァイト。宝飾用にカット・研磨されたものと未加工の原石をセットで配置し、ラベルには「宝石」としての名称だけでなく、「鉱物」としての名称も併記した。

YANAGISAWA Norio, SUMII Tomoaki, SETOGUCHI Nozomi, FURUSAWA Midori, ASAKAWA Nobuko and SHIMIZU Yuko (2023) Exhibition Renewal of Geological Museum: Birthstone display in the lobby.

（受付：2023年9月28日）